

ほっとほっとタイムズ—第1号—

2023.4.18

井荻小学校 特別支援教育校内委員会

新学期が始まりました！

1年生だけでなく、どの学年の子供たちもはつらつと登校し、新しい担任の先生や友達とともに、教室でもがんばろうとしている姿がたくさん見られ、うれしい限りです。この調子で毎日過ごせるといいなと願っています。おうちでもたくさん、子どもの話を聞いてあげてください。

さて、基本的には子供たちは友達と一緒に過ごすのが大好きです。「子どもが生きるとは、活動すること学ぶこと発達することである」といった人がいますが、「学ぶこと」も大好きです。しかし、いつもいつも調子よく過ごせるわけではありません。時にはトラブルとなったり、気持ちが落ち込んだり、不安だらけになったりもするでしょう。その時、大事になってくるのが大人の役割だと思います。

大人と一緒にあって怒ったり不安になったりしたらどうでしょう。子どもは余計に不安になってしまいます。本当は解決したいだけなのに。こんな時こそ魔法の言葉、「大丈夫、大丈夫」と声をかけて安心させてやってください。そして、もう一度チャレンジする勇気を出させてやるのが大切だと思います。子どもの気持ちもわからずただ「大丈夫」と言っても効き目はありませんよね。まずは「どうしたの？」と言って子供の思いを聞いてやってください。そして、「そうか、悲しかったんだね。悔しかったんだね。」と、気持ちを受け止めてあげた後で、「それで、あなたはどうしたいの？」と聞いてみてください。再チャレンジするための相談に乗ってやってほしいと思います。きっと子どもはおうちの方々のエネルギーをもらって頑張れるはずですよ。そして帰ってきたら、「どうだった？よく頑張ったね。」とほめてあげてほしいのです。その時、子どもはトラブルが起きる前よりうんとうんと成長し、頼もしい存在になっているはずです。もし、子どもの代わりに大人が解決に乗り出したらどうなってしまうのでしょうか。（不安な時は遠慮せず、担任に声をかけてくださいね。きっと力になってくれるはずです。）

学校は集団生活の場です。学校で学ぶことは本当にたくさんあるといつも感じます。学習内容は言うまでもありませんが、仲良くしたいときの言葉のかけ方、困ったときの助けの求め方、間違えた時の謝り方、友達と気持ちが通じ合った時の気持ちの良さ、たくさんで一緒に活動できたときの楽しさ……。まだまだあります。学習用具の整理の仕方、忘れ物をしないための手立てのとり方、掃除の仕方、給食の配膳の仕方、そして、失敗しても大丈夫という気持ち……。数え上げればきりがありません。こうしたことは、みんなが一斉にできるようになるわけではありません。子どもたちはそれぞれ個性があり、得意不得意の違いがあります。そこが、人間として面白くもあり魅力でもあるのです。得意な子が苦手な子を助けながら、ともに成長していく。そこが集団の良いところですね。ただ、そうなるためには、「人は誰も得意不得意がある。価値のない人間は誰もいない」という共通理解がどうしても必要です。ご協力、お願いします。

だれにも得意不得意があるのですが、苦手なことが大きく、集団生活がつらくなることが時にあります。「発達障害」と言われたり、発音が少し苦手だったりする場合があります。こうした場合、杉並区には「特別支援教室」というシステムがあります。言葉の場合は「きこえとことばの教室」というところがあり、教室のある学校に週1回出かけて支援を受けます。「発達障害」は「いおぎ教室」という名前で、本校の中で巡回の先生から支援を受けます。どちらも申込日が決まっているので、気になったら早めにお声掛けください。「発達障害」。最近よく聞く言葉です。次号で少しお話ししたいと思います。

